
メリーポピンズ成増ルーム

令和4（2022）年度

福祉サービス第三者評価結果報告書

株式会社 学研データサービス



1. 東京都第三者評価推進機構提出内容

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1)「にんげん力」を身に付けるために必要な遊び・野外体験を提案実践し”自分で考え、行動する思考”を育みます。 2)10よりも100の経験を与え、子どもが”したいと思う活動”を安全に行えるように見守り、支援してゆきます。 3)”感じたこと・考えたこと”を言葉でジェスチャーで、表情で、描いて、造って、表現できる子どもを育成します。 4)「0を1にかえる力」を日本中の子ども達につけ、物事を投げ出さずに向き合う若者が社会を支える世の中を創ります。</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育現場で求める人物像 現状に満足せず自己の成長を常に意識している人 やって見せ、背中で教えてゆける人 より良い保育を目指して創意工夫していける人 ・社会人としての質向上 忙しさや大変さを表情や口調に出さず、いつでも笑顔で心がける。お願いします、ありがとうございます、など仕事中の言葉遣いに注意し、正しい日本語を身に付ける。子ども全体を見て自分が今、何をすれば良いのかを判断して、自ら行動したり、提案する。 <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育士としての質向上 子どもの命を預かる重みを自覚し、守らなければいけないことを遵守し、常に平常心で子どもと接する。後輩には自分の知識を教え、育てる気持ちを持ち、一人ひとりがリーダーになるという気持ちで責任を持って保育を行う。

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	在職年数が長い職員が多いことがチーム力を高めるとともにアットホームな雰囲気を作り出しており、保護者の信頼にもつながっています
	内容	保育士の離職が社会問題になっていますが、当園は職員の平均在職年数が7年以上になっており、10年を超す職員もいます。施設長及び本部マネージャーによる職員との積極的なコミュニケーションが定着率の向上につながっている一面もありますが、職員そのもののモチベーションの高さこそ大きな要因ではないかと施設長は分析しています。第三者評価における職員自己評価結果からも職員同士の信頼関係の強さ及びチームワーク、コミュニケーションの良さが伝わってきます。施設長が意図する地域の子育て支援への積極的な対応を支えるチーム力です。
2	タイトル	園と保護者との連絡においてアプリなどを活用して細部にわたって伝え、保護者との信頼関係を築いています
	内容	毎日の子どもの様子を連絡用アプリなどを活用して保護者に伝えていきます。また、お迎え時には3分間対応を心がけ、保育士がその日の様子を口頭でも伝えていきます。毎月の行事についてはポートフォリオを掲示し、「ポピンズだより」を通してその月の歌、リズムの内容、畑仕事報告、活動報告を掲載しています。「食育だより」では今月のトピックスとして「食」のこだわりを掲載し、「保健だより」では流行しやすい感染症について注意を促しています。このようなこまやかな情報提供とコミュニケーションにより、保護者との良好な関係が構築されています。
3	タイトル	異年齢保育を通して、子どもが自分でできることは自分でやろうとする意識を高めています
	内容	園では日常的に異年齢保育を行っており、子どもたちは年齢の大きい子どもの姿を見て育ち、自分でできることは自分でやろうとする意識が高まっています。昼食の時間には自分で席を選び配膳し、おかわりも自分から発信しています。食後は2歳児の片づけの様子を見ながら1歳児も残菜をバケツに入れ、食器を所定の場所に片づけ、自分で口を拭いています。遊びの時間には自分の意思で活動を選択して、個々に遊び込んだり、異年齢で遊びを展開したりする姿が見られます。このような活動を通して、子どもたちは自分で考え、行動する力をはぐくんでいます。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	系列他園からの連携の頻度が高いことなど人手不足感が課題になっており、改善が望まれます
	内容	園では系列他園からの連携の頻度が増加しているため、早急な対策が望まれます。特に、延長保育が発生した場合に正職員で対応することが難しい日もあり、パート職員または系列他園からの連携に頼らざるを得ない時があります。残業ゼロを目ざしている園ですが、場合によっては残業での対応が必要な日もあります。パート職員の比率が高く、シフト調整が難しい日もあることから、本部マネージャーと連携することで何らかの解決策を探ることが期待されます。
2	タイトル	設備類の老朽化に対して、できる範囲での修繕や更新を進めることが望まれます
	内容	開設から14年を経過している中で、多くの設備類の老朽化が課題として挙がっています。これまで子どもへの安全性や職員の業務効率化などの観点から、手洗い場の修繕や職員用ロッカーの導入など、可能な範囲で一つずつ対応されてきました。今後はさらに、別の設備類の修繕及び更新について、本部と連携して計画を策定し、そのもとに推進されることが望まれます。
3	タイトル	苦心しながらも限られたスペースを上手に多用途に使っていますが、さらに整理整頓に力を入れていくと良いでしょう
	内容	限られたスペースとはいえ、食事、午睡、遊び、0歳児保育と、すべてに対応しなければならないことから、空間の使い方に苦心が見られますが、そのためか細かなところまで整理整頓の意識が行き渡っていない印象です。保護者の目にもとまりやすい事務所内の整理も必要でしょう。今後は明るく過ごしやすい空間づくりの工夫が期待されます。さらに、古くなった絵本などの見直しも図られると良いでしょう。

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	3-3-2	地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている
タイトル①	待機児童に関する課題に真正面から取り組み、情報提供など継続的な支援を行っています	
内容①	待機児童問題を抱える地域に位置する園は、真正面からその課題に取り組むことで地域に選ばれる園、地域に必要とされる園を旨としています。そのために、スピード感をもって待機者に対する対応を心がけていると同時に、子育て支援を目的とする「ちきんえっぐ」に誘うなど、入園に至るまでの継続的な支援に取り組んでいます。空き枠が発生した時には速やかに連絡して保護者の安心につなげています。また、認証保育所に関しては区域を超えた利用が可能なことを伝えることで、ニーズに応えるとともに新たな需要の掘り起こしにも取り組んでいます。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	3-3-2	地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている
タイトル②	子育て支援を目的に一時預かりを積極的に行い在園児と同質のサービスを提供しています	
内容②	施設長は、常に地域のニーズに目を配り、地域に選ばれる園を旨とし、子育て支援の一環として一時預かりに積極的に取り組んでいます。空き枠を確認したうえでポスターを掲示し、1月から3月までの短期間の一時預かりを受け入れる試みも行いました。施設長は、子どもを一時預かりで受け入れる際に保護者の声をしっかりと聞き取り、さまざまな面で柔軟な対応をしています。また、受け入れた後は在園児と同じ質のサービスを提供するように心がけており、保護者の安心につなげています。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-1-1	利用希望者等に対してサービスの情報を提供している
タイトル③	園見学では子どもたちの様子を見てもらうだけでなく、保護者の相談にもものっています	
内容③	事前に電話やホームページなどから見学希望の連絡を受けた場合は、希望者の都合の良い日を確認して日程を決めています。散歩出発のタイミングと重ならないように9時半からの見学を案内していますが、子どもの様子が見たい、土曜日に見学したいという要望にも柔軟に対応しています。見学時間は約1時間をめやすにして、落ち着いた雰囲気の中で、保育園探しにおいてどこを重要視しているか、必要であれば卒園時の移行についての不安なども聞いて保護者に寄り添った対応をしています。	

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目 カテゴリー1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリー1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	
	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 7/7	
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	あり	◆1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている
	あり	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
あり	◆1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	
あり	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	
評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
あり	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	
あり	◆2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	
あり	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	
カテゴリー1の講評		
公表コメント	人間力、生きる力を育てることを理念とし、職員及び保護者にも周知が図られています 子どもたちの乳幼児期を重視することが人間力を育て、生きる力を培うものとし、その理念に沿って農業や自然、人と人とのコミュニケーションを大切にする保育が行われています。理念や保育方針は、研修及び園会議、各種ミーティングなどを通して職員に徹底が図られています。理念などは入園時に配付される入園のしおりや重要事項説明書、ホームページにも明記されているとともに、園の玄関にも明示されているなど保護者への周知も図られています。年2回開催される保護者懇談会も園の方針などの理解を深める機会となっています。	
	施設長は自ら事業計画書を策定し、目標に向けてリーダーシップを発揮しています 施設長は自ら策定した事業計画書を基に年間計画を立て、具体的な言葉で「園目標」を示すとともに、主に次年度の行事を決める策定会議の場において園が目ざすべき方向の周知を図っています。職員が日々の保育実践の中で園が目ざす方向性を見失っていると感じた場合は適宜アドバイスを行うなど、一人ひとりの目標達成に向けてサポートしています。また、リーダー層と位置付けている職員に対してその役割の自覚を促すとともに、新人職員に対してはOJTを通して保育の基本をていねいに伝えるなど、リーダーシップを発揮しています。	
	重要案件は各種会議で職員に周知され、アプリなどを通して保護者に理解を求めています 園運営にかかわる重要案件は、経営会議、取締役会で決定されたのち園に通知されます。特に重要な案件は園会議及び昼礼時において討議し、園としての意志決定がなされ、決定内容は議事録や口頭伝達などで全職員への周知が図られています。日々の連絡事項に関しては「シッターノート(連絡ノート)」をもって行われています。保護者にかかわる重要案件は、主に連絡用アプリを通して理解を求めるとともに、お迎え時にも改めて口頭で伝え、質問があれば随時対応し安心につなげています。	
非公表コメント	カテゴリー1の講評補足	

2		カテゴリ-2	
事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行			
サブカテゴリ-1(2-1)			
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6	
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)	
評価	標準項目		
あり	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している		
あり	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している		
あり	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している		
あり	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している		
あり	5. 事業所の経営状況を把握・検討している		
あり	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している		
サブカテゴリ-2(2-2)			
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5	
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)	
評価	標準項目		
あり	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している		
あり	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している		
あり	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている		
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)	
評価	標準項目		
あり	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している		
あり	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる		

	<p>カテゴリー2の講評</p>
公表コメント	<p>アンケートなどを通して保護者及び職員の意向を把握し、地域ニーズも捉えています</p> <p>保護者の意向は、通園開始からしばらく経過してそれぞれの理解が深まった毎年9月に実施される、利用者アンケートなどによって把握しています。また、保護者との面談や保護者懇談会の場も保護者の声を聞く機会となっています。職員の意向は、個人面談において異動希望及び働き方などの確認を行っています。主に月1回開催している系列園の認証園会議において周辺情報は得ていますが、園では地域ニーズが一時利用及び一時保育にあると捉え、本部一体で対策に取り組んでいます。</p>
	<p>どろんこ会グループの長期ビジョンを基に施設長が園独自の中期計画を策定しています</p> <p>どろんこ会グループの50年後の「AI時代」までも視野に入れた長期ビジョン、長期計画を基に事業を展開しています。園は毎年、運営本部ミッションに基づいて策定会議を開催し、施設長は其中で中期計画にあたる3か年計画及び単年度の事業計画を策定しています。事業計画は毎年振り返りが行われており、年間指導計画もそれに沿って策定されています。園運営にかかわる全体予算は運営本部が作成し、人件費及び物品予算などは園のニーズを吸い上げて比例配分され、施設長が必要とする費用なども組み込むことができる仕組みとなっています。</p>
	<p>組織目標及び個人目標が明確になっており指導計画に基づいた振り返りも行われています</p> <p>運営本部ミッションに基づいて施設長が策定する事業計画書は上半期に振り返り、下半期に向けた目標の再確認が行われています。どろんこ会グループでは職員個々の目標を設定し、それに対する達成度合いを評価する目標管理制度(MBO)を採用しており、組織目標とリンクした目標が達成できたか、できなかったかが明確になっています。施設長は職員に対する中間面談を行うとともに、園会議及び各クラス担任による会議などで意見を出し合い、情報共有を図りながら、全職員のベクトル(方向性)を合わせて目標達成に向けた取り組みを行っています。</p>
非公表コメント	<p>カテゴリー2の講評補足</p>

3		カテゴリ-3	
経営における社会的責任			
サブカテゴリ-1(3-1)			
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2	
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる			
評点(〇〇)			
評価	標準項目		
あり	◆1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる		
あり	◆2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している		
サブカテゴリ-2(3-2)			
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4	
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている			
評点(〇〇)			
評価	標準項目		
あり	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		
あり	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある		
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている			
評点(〇〇)			
評価	標準項目		
あり	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している		
あり	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている		
サブカテゴリ-3(3-3)			
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5	
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる			
評点(〇〇)			
評価	標準項目		
あり	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる		
あり	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの見学・実習の受け入れ体制を整備している		
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている			
評点(〇〇〇)			
評価	標準項目		
あり	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている		
あり	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している		
あり	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる		

	<p>カテゴリー3の講評</p>
公表コメント	<p>職員全員に配付されるマニュアルで保育品質を問い、法令順守などの意識を高めています</p> <p>保育にかかわる者として最も問われている法令順守及び規範、倫理に対する意識は高く、常に自ら振り返りも行われています。職員全員にはどろんこ会グループが作成した保育全般にかかわる小冊子「保育品質マニュアル」が配付されており、常に携行し振り返ることが求められています。さらに、目標とすべき理想の行動を示す「コンピテンシー」に基づいて自らの保育実践の見直しも行われています。また、新たに「コンプライアンス統括室」を設けて保育現場などでの法令違反を常にチェックしているなど、法、倫理などに対する高い意識がうかがえます。</p>
	<p>職員自ら人権チェックを行い、保護者対応及び虐待防止に対する振り返りを行っています</p> <p>苦情解決体制は入園のしおりなどに明記するほか、ご意見ボックスとあわせて園の玄関に置かれています。苦情が直接本部に入った場合は本部マネージャーなどを通して園に知らされ、園に入った苦情は施設長を通して本部に報告され、いずれも解決に向けて取り組むとともに「ご意見・ご提案シート」に記録され全職員に周知されています。年2回「児童・保護者の人権に関するチェックシート」に基づいて全職員が自らの行動に対する振り返りを行っています。保護者などによる虐待を疑われる場合は、本部を通して関係機関へ連絡することになっています。</p>
	<p>青空保育や子育て講座、相談会などを通して地域のニーズを掘り起こし、貢献しています</p> <p>当園は地域の子育て支援には深い関心を持っており、できる限り貢献できるように努めています。毎月散歩コースにあたる公園で行われる青空保育は、未就園児家庭の親子にも開放され、園のPRや子育て、育児相談の機会となっています。子育て支援情報誌「ちきんえっぐだより」を通して園の取り組みを発信しており、「子育てスキル講座」とあわせて地域ニーズに応える取り組みとして高い評価を得ています。また、区主催の入園相談会に参加するとともに、認証保育所が区域を越えて通えることを案内するなど、きめ細かな支援にも取り組んでいます。</p>
非公表コメント	<p>カテゴリー3の講評補足</p>

4		カテゴリ4	
リスクマネジメント		サブカテゴリ1(4-1)	
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5	
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(00000)	
評価	標準項目		
あり	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている		
あり	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている		
あり	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している		
あり	◆4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解し対応できるように取り組んでいる		
あり	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる		
		サブカテゴリ2(4-2)	
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4	
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(0000)	
評価	標準項目		
あり	◆1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている		
あり	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している		
あり	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている		
あり	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している		
カテゴリ4の講評			
公表コメント	子どもの命にかかわるリスクを想定し、マニュアルなどを整えて対策を講じています 事故や災害にかかわらず「子どもの命にかかわるリスク」を最優先に捉え、避難訓練、不審者侵入防止訓練、プール事故に対する訓練などを定期的に行っています。また、散歩時の見失いや置き去り防止のために、人員確認リーダーを定め、野外活動時における人員確認のダブルチェックを徹底しています。園に配置されている「保育運営マニュアル」は毎年見直しが行われ、職員全員で新たな改定点や重点ポイントなどの再確認が行われています。万一の場合は本部への報・連・相による報告が徹底され、再発防止に備えています。		
	大きなリスクを想定した「クライシスマニュアル」が策定され事業の継続に備えています 大地震等の大規模災害、子どもの事故などの重大な事案を想定して系列園共通の「クライシスマニュアル」を策定しています。当園の事業継続計画(BCP)は、当マニュアルを基に、実情を加味して作成を予定しています。本部では緊急時に直に対策本部を立ち上げることが決まっており、大規模災害の場合は通信回路が回復次第、各園の状況を把握したうえで再開に向けた協議に入る手順になっています。		
	個人情報などは適切に管理され、職員も自ら情報管理に関するチェックを行っています 保育料等の会計データ、入園時情報などの機密性の高い情報類は管理するパソコンを特定し、管理者のみがパスワードを使ってアクセスできるように設定されています。その他の個人情報に関する書類は鍵付きの書庫で保管し、鍵は施設長が管理しています。スタッフに貸与されている園携帯には個別のパスワードが設定され、園内で撮影された写真は1週間以内に消去するよう義務付けられています。USBなどの外部記憶媒体の使用も一切禁止されています。年2回全職員を対象とした情報セキュリティチェックを実施し、情報管理に対する意識を高めています。		
非公表コメント	カテゴリ4の講評補足		

5		カテゴリ5	
職員と組織の能力向上			
サブカテゴリ1(5-1)			
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12	
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている			
評価		標準項目	
あり	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している		
あり	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる		
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している			
評価		標準項目	
あり	◆1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている		
あり	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している		
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる			
評価		標準項目	
あり	◆1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している		
あり	◆2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している		
あり	◆3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している		
あり	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている		
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる			
評価		標準項目	
あり	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている		
あり	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる		
あり	◆3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる		
あり	◆4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている		
サブカテゴリ2(5-2)			
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 3/3	
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる			
評価		標準項目	
あり	◆1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している		
あり	◆2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている		
あり	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる		

	<p>カテゴリー5の講評</p>
<p>公表 コメント</p>	<p>施設長との接点を大事にした採用が効果を上げており、退職防止にも取り組んでいます</p> <p>新卒採用は本部主導で行われていますが、入職希望者には園見学を通して施設長と接点を持つように勧めています。その結果、施設長と共感することで「一緒に働きたい」という気持ち生まれ、入職後における早期の退職軽減という効果もありました。個人面談で次年度に向けての意向を確認するとともに、施設長と本部マネージャーが個性や能力、将来の可能性などを共有したうえで、本人が成長できる場として異動配属先を選定しています。施設長はリーダーの育成も自らの役割と自覚しており、結果的に職員の離職防止につながっています。</p>
	<p>人事考課制度が整っており、キャリアパスにつながる目標設定も明確になっています</p> <p>どろんこ会グループによる人事考課制度が整備されており、等級及び役職をリンクさせたキャリアパスにつなげています。事業計画に明記された育成計画を基に施設長が個人面談を行って次年度に向けた目標を設定し、中間面談及び年間評価を経て職員の評価が確定しています。毎月「保育の質を上げる会議」を行ってテーマごとに職員間で話し合いが行われるとともに、地域に公開している「子育てスキル講座」、勤務時間でも受講できる外部研修など手厚い研修制度が用意されています。施設長は月1回の勉強会において自らのスキルアップも図っています。</p>
	<p>施設長はコミュニケーション力を生かして働きやすい環境を目ざしています</p> <p>施設長は、できるだけ職員の希望する休みを反映できるようにシフト調整を行うとともに、休憩時間も1時間取れるようにローテーションを組んでいます。また、施設長は個人面談を通して職員の悩みの解消につなげるとともに、職員への声かけを欠かさないだけでなく、聞き取った職員の声を法人につなげる努力をしているなど、そのコミュニケーション能力の高さは法人からも評価されています。施設長の決裁事項となっている処遇改善加算の対象者選定は、職務姿勢などを見ながら公正を期して行われ、モチベーション向上につながっています。</p>
<p>非 公表 コメント</p>	<p>カテゴリー5の講評補足</p>

カテゴリ7	
7	事業所の重要課題に対する組織的な活動
サブカテゴリ1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)	
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)	
<p>施設長は園及び保育士の取り組みに関して「発信力」を高めることを目標のひとつとしました。認可保育所とは違う認証保育所そのものの特性があまり理解されていないと感じたことが背景にありました。自らの園を選んでもらうための取り組みも不足していると感じた施設長は、園会議などを通して認証保育所の特性を再確認することにも取り組みました。また、施設長は認証保育所の特性を広く知らしめることが、ひいては子育て支援につながることも確信し、何よりも保育の「見える化」にチャレンジしました。そのひとつが昨年度4月から開設した園ブログです。月1回の更新を旨とし、職員が持ち回りで伝えたいことを発信していきました。それ以外にもポートフォリオの掲示やタイムラインの配信にも力を入れました。さまざまなツールを活用した取り組みの結果、情報発信の効果は着実に上がっており、認証保育所としての特性を生かして地域ニーズに応えています。</p>	
目標の設定と取り組み	具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った
取り組みの検証	目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った
検証結果の反映	次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた
評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評	
<p>施設長は、園における保育実践の実情をできるだけ伝え、発信力を高めることを目的に据え、さまざまなツールを使って保育の「見える化」に取り組みました。園会議や日々の会話の中で地域における待機児童の現状などを話し、待機解消に果たす認証保育所の役割や可能性などを職員と共有しました。特に、次年度に向けて見学者が増えることが予想された場合や空き枠が発生した場合、ビジター園児の受け入れの際に取り組みの成果を見ることができました。まず、見学者が目に見えて増えました。写真などによる見える化だけではなく、区の入園相談会におけるブース設置による効果としてエリア外からの問い合わせがありました。ブログの閲覧数も大幅に増えました。発信力の強化に向けた意識は「空き枠を作らない」という前向きな意識へとつながりました。1～3月という短期間でありながら園児募集の張り紙を掲出し、園児受け入れに向けた積極的な姿勢をアピールしました。施設長は一連の取り組みによって「ビジター園児登録や空き枠が発生しても、スムーズな案内で月の空き枠を作らない動きができるようになった」と感じています。今後も選ばれる園を旨として発信力の強化に取り組むとしています。</p>	
非公表コメント	カテゴリ7評価項目1の講評補足

<p>評価項目2 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)</p>	
<p>前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)</p>	
<p>施設長は「発達に応じた離乳食の導入」をもう一つの目標としました。背景にあったのは離乳食に対する捉え方が家庭によってバラバラだという実情がありました。これには嚥下と咀嚼がかかわることから、まず調理担当に思いを伝えて協力を求めました。保護者には園における「食の専門性をどう伝えるか」を考えた施設長は、初期から中期などへの移行のタイミングでわが子の様子を記録した動画を保護者に見せました。ことに後期から完了期にかけて未食が多い場合は期が移行できないため、保護者と協力して未食食材を減らす取り組みなどを行いました。職員に対しては給食運営会議などを通して離乳食に対する共通認識を持つように指導しました。その結果、職員は離乳食に対する知識が深まり、離乳食をどのようにすればいいか「わからない」という保護者もいなくなりました。主に0～2歳児を対象とする認証保育所には保護者の不安を少しでも軽減することも大きな使命です。そのような中、離乳食のあり方に注目し、一定の成果に導いた施設長の取り組みは、保護者の安心とともに園に対する信頼へとつながり、今後も継続して行われています。</p>	
<p>目標の設定と 取り組み</p>	<p>具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った</p>
<p>取り組みの検証</p>	<p>目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った</p>
<p>検証結果の反映</p>	<p>次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた</p>
<p>評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評</p>	
<p>子どもの発達を離乳食の見直しを通して支える試みは、職員の離乳食に対する意識に変化をもたらし、保護者から離乳食に対する不安を軽減することにつながりました。子育て中または出産を控えた母親を対象に広く地域に開かれた「子育てスキル講座」でも離乳食をテーマに取り上げるなど、引き続き家庭における不安を軽減する取り組みを行っています。もう一つ注目したい取り組みが「だし」の見直しです。離乳期であってもおいしく食べてもらいたい、そして味覚のわかる人に育ててほしい、そんな思いから調理担当と協力するとともに、保護者にも試飲してもらいながら改善に取り組みました。その結果、だしをしっかりとることで風味の良い和食を提供することができました。1日の多くの時間を園で過ごす、0～2歳児という体の基礎を作る大切な時期にある子どもたちにとって、何にも勝るのが健康な「食」であり、食べる事の楽しみを知ることでないでしょうか。どろんこ会グループとしてもその理念の柱のひとつとして「食べる」ことを据えています。認証保育所の特性から離乳食に着目し、健康のみならず「おいしい」を求めた施設長及び職員の取り組みは、ニーズに応じて今後も継続して行われます。</p>	
<p>カテゴリ7評価項目2の講評補足</p>	
<p>非公表 コメント</p>	

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリー6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
あり	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	
あり	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている	
あり	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	
あり	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	
あり	5. 事業所のサービス利用が困難な場合には、理由を説明したうえで、他の相談先紹介など支援の必要に応じた対応をしている	
サブカテゴリー1の講評		
どろんこ会グループのホームページやパンフレットなどで園の情報を提供しています		
園の情報は、どろんこ会グループのホームページやパンフレットなどに掲載されています。ホームページでは、大切にしている子育て観や系列園共通に取り組んでいる保育内容などを写真や動画などをふんだんに使って紹介しています。当園の情報は「施設一覧」から検索できます。住所、定員、地図、月額利用料などの基本情報のほか、最新の空き情報もわかるようになっています。また、昨年度から始めた園ブログは月1回のペースで更新されており、写真を見るだけでも園の日常の保育の様子が伝わる内容となっています。		
区のホームページや園が発行する子育て情報誌から園の情報が得られます		
区のホームページの「認証保育所のご案内」から区内認証保育所の情報が得られるようになっています。園名称、住所、所在地、電話番号、空き情報のほか、園のホームページへのリンクも貼られています。そのほか、園の情報を伝える媒体として、園が発行する子育て情報誌「ちきんえっぐだより」があり、近隣の図書館、区民館に置いてもらっています。公園での本読みなどを行う「青空保育」のお誘いも掲示して地域への周知に努めています。このような子育て支援活動も利用希望者にとって、園の具体的な活動を知るきっかけの一つとなっています。		
個別の状況に応じて問い合わせや見学の要望に対応しています		
利用希望者から見学や入会の希望があった際には、郵送で入園のしおりや待機申請書を送ったり、見学日時を調整して見学時に渡したりしています。電話やホームページからの問い合わせには、そのつど対応し、見学の際は、園の様子がわかる写真、おたより、ポートフォリオ、畑での子どもの様子などを見てもらい、園で実践している保育が具体的にイメージできるようにしています。また、実際に保育室の中を案内し、パンフレットを基に保育理念、保育内容、料金プラン等を詳しく説明し、質問にもていねいに対応しています。		
サブカテゴリー1の講評補足		
非公表コメント		

公表コメント

非公表コメント

サブカテゴリー2	
2	サービスの開始・終了時の対応 サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている 評点(〇〇〇)	
評価	標準項目
あり	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している
あり	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている
あり	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている 評点(〇〇〇)	
評価	標準項目
あり	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している
あり	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している
あり	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている
サブカテゴリー2の講評	
公表コメント	入園手続きの際には、保護者に対して重要事項などの説明を行っています 入園手続きの際には、保護者に対して重要事項説明書を用いて一つ一つ内容を確認しながら読み合わせを行い、そのつど質問がないか確認しています。契約書には退園する際のルールについても記載があるので漏れなく説明するようにしています。特に利用料金にかかる部分については細かいルールが定められており、誤解のないように丁寧な説明を心がけています。保護者には内容を確認し、理解してもらったうえでサイン、押印をしてもらいます。
	新入園児の不安やストレスが軽減されるように寄り添った保育を実践しています 新入園児が保育園生活に慣れるまでは、できるだけ同じ保育士が対応することで信頼関係を築き、お気に入りのぬいぐるみやタオルの持ち込みも許可して不安を取り除くよう配慮しています。通常保育に移行した際には、個々の生活リズムに配慮し無理のない範囲で活動を行いつつ、気分転換になるように野外活動を多く実施しています。保護者に対しては、連絡帳アプリやタイムラインで子どもの様子を伝え、お迎えの際には3分間対応を大切に、口頭でも伝えるようにしています。
	途中転園や卒園時には子どもと保護者の不安に寄り添い、継続した支援を心がけています 途中転園や卒園に伴う転園の際には、保護者にはいつでも子どもの相談などに来てもらえるよう声をかけています。卒園児が保護者とともに土曜日保育の際に園を訪れることがあるほか、卒園児の保護者には園のイベントで披露する阿波踊りを教えてもらったり、転居のため転園した家庭の紹介で当園に入園する子どもがいたりするなど、良好な関係が保たれていることがうかがえます。また、コロナ禍以前は運動会に卒園児を招待するなど、継続した支援を心がけています。
	サブカテゴリー2の講評補足
非公表コメント	

3 個別状況の記録と計画策定

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 12/12

評価項目1
定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している 評点(〇〇〇)

評価	標準項目
あり	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している
あり	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している
あり	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている

評価項目2
全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している 評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目
あり	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している
あり	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況(保護者の意向を含む)の変化に即して、作成、見直しをしている
あり	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている
あり	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している
あり	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている

評価項目3
子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している 評点(〇〇)

評価	標準項目
あり	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある
あり	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している

評価項目4
子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している 評点(〇〇)

評価	標準項目
あり	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している
あり	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している

	サブカテゴリ-3の講評
公表コメント	<p>全体的な計画をもとに連続性のある指導計画を作成し、保育を実施しています</p> <p>前年度の「策定会議」において職員全員で子どもの姿などを振り返り、見直す点を踏まえたうえで次年度の全体的な計画を立てています。そして養護と教育の各領域を考慮して年齢ごとに年間指導計画を作成しています。年間指導計画をもとに、月間指導計画を立て、週間指導計画を立て、日案を立て、全てがつながるように立案しています。保護者には、毎年4月に全保護者に向けて連絡用アプリで全体的な計画、年間指導計画を配信して、周知を図っています。</p>
	<p>子ども一人ひとりに関する必要な情報を職員全員が把握し、共有して記録しています</p> <p>指導計画は子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に対応して週単位で見直し、指導計画に沿った具体的な内容と、その結果子どもの状態がどう推移したかについて省察として詳しく記録しています。子ども一人ひとりに関する情報は月1回の園会議で共有を図り、議事録も回覧して職員全員で把握できるようになっています。配慮が必要な子どもがいた場合には、個別指導計画をもとにケース会議を開いて職員全員の共通認識のもと保育や援助を行い、その記録を残し、職員間で共有しています。</p>
	<p>子どもや保護者の状況の変化に速やかに対応して申し送りと引き継ぎを行っています</p> <p>職員間で共有すべき事項を記載する「シッターノート(スタッフ間の連絡ノート)」、保護者に伝えるべきことを記載する「お迎え伝達ノート」を活用して、朝の受け入れ時の子どもの様子や保護者から聞いた内容を記入しています。またお迎え時に保護者に伝える内容として、子どもの園での様子や特筆すべきこと、連絡事項を記入しています。お迎え伝達ノートには記入者と伝達者のサインをする箇所があり、共有漏れや伝達漏れがない仕組みになっています。</p>
非公表コメント	サブカテゴリ-3の講評補足

サブカテゴリ-5									
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重 サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5								
	評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している 評点(〇〇)								
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>あり</td> <td>1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている</td> </tr> <tr> <td>あり</td> <td>2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目	あり	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	あり	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている		
	評価	標準項目							
	あり	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている							
	あり	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている							
	評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している 評点(〇〇〇)								
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>あり</td> <td>1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している</td> </tr> <tr> <td>あり</td> <td>2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている</td> </tr> <tr> <td>あり</td> <td>3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目	あり	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	あり	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	あり	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている
	評価	標準項目							
	あり	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している							
あり	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている								
あり	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている								
サブカテゴリ-5の講評									
公表コメント	常に子どもの人権を尊重し、プライバシーを保護しています 個人情報の取り扱いについて、契約前の利用者情報登録の際に保護者に説明し、同意を得ています。入園後は子どもの写真を園ブログに掲載する際に、そのつど保護者の同意を得ています。野外活動の一環である散歩に行く際にも名札の表示を子どもの名前にするかマークにするかを保護者の意向に合わせ、室内に掲示している子どもの作品も氏名ではなくマークで統一するなど、プライバシー保護を徹底しています。子どもの羞恥心にも配慮し、おむつ交換時には外から見えないようにし、水遊びの際の着替えもカーテンで目隠しをして対応しています。								
	日常の保育の中では、子ども一人ひとりを尊重して寄り添った保育を実践しています 子どもの名前を呼ぶときは必ず敬称をつけ、呼び捨てやあだ名をつけて呼ぶことはしないようにしています。子どもが興味を示したことはできるだけ見守り、活動に取り組んでいる際は安全を確保し、最低限の補助にとどめて子どもが自分でやりたいという気持ちを育てています。また半年に1回(4月、10月)、人権チェックリストに基づくチェックを全職員が実施して、子どもの人権について改めて確認するとともに、自身の保育と照らし合わせて、子ども一人ひとりを尊重した保育ができるように心がけています。								
	虐待防止研修などの勉強会に積極的に参加して、理解を深めています 職員は「保育運営マニュアル」「保育品質マニュアル」を熟読し、虐待防止の研修に参加しています。虐待の早期発見の取り組みとして、登園した朝に視診、触診をし、外傷の有無を確認しています。また、目に見える傷だけでなく、心理的虐待がないかも注意して観察し、園がその子どもにとって安らげる場となるように寄り添うようにしています。園では「園と家庭の共育てを行う」ことを今年度の事業計画に位置づけており、子どもを真ん中に据えて、保護者と手を携えて育ていけるように、保護者の様子も観察し支援に力を入れています。								
	サブカテゴリ-5の講評補足								
非公表コメント									

サブカテゴリー6	
6	事業所業務の標準化
サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5	
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評点(〇〇〇)	
評価	標準項目
あり	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている
あり	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている
あり	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている 評点(〇〇)	
評価	標準項目
あり	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている
あり	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている
サブカテゴリー6の講評	
公表コメント	どろんこ会グループ共通のマニュアルが作成され、定期的に点検・見直しされています 系列全園がマニュアルを遵守することで安全で一定のサービスが提供されるようになっていきます。園対応の標準化を旨としたどろんこ会グループが作成する「保育運営マニュアル」が園に1部設置されています。また職員一人ひとりに法人本部が作成した「保育品質マニュアル」が配付され、目ざす保育や留意点について共通理解を図っています。保育品質マニュアルは毎年4月に改訂され、前年度版と引き換えに最新版が配付されます。マニュアルに定めた事故防止チェックリストや設備点検チェックリストを用いて、定期的実施漏れがないかを確認しています。
	サービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められています 毎年9月ごろに利用者アンケートを行い、その結果や記載された意見を園内で共有した後に本部に報告し、園の職員で改善策を検討し実行しています。保育運営マニュアルと保育品質マニュアルにおいては、毎年1回、改善案がある場合には施設長が本部に上程し、毎年改訂版が発行されています。年に1回内部監査室による内部監査を受けて、「命や安全に関わること」「保育内容」「保育環境」などがマニュアル通りに実施できているかを第三者的な視点で確認しています。
サブカテゴリー6の講評補足	
非公表コメント	

Ⅲ サービスの実施(カテゴリー6-4)

		サブカテゴリー4	
サービスの実施		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 35/35	
1	評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている	評点(〇〇〇〇〇)・非該当1	
	評価	標準項目	
	あり	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	
	あり	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	
	あり	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	
	あり	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	
	あり	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	
	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携を図っている		非該当
評価項目1の講評			
公表コメント	子どもが自らの意思で遊びを選択できるように環境を工夫しています 施設長は園を「子どもの意思で活動を選択し、子どもの意思で室内を自由に裸足で行き来できる大きな家」と捉えています。ワンフロアの室内は開放的で、間仕切りとなる柵やパーティションは最小限にとどめています。おもちゃや絵本は子どもの手に取りやすい位置に置かれ、子どもたちは自分の意思で遊びを選択しています。また、日々の活動の中で興味や関心をもったものを実際の保育に取り入れ、紅葉した葉から秋をイメージしたり、畑に行く際に乗るバスをイメージした牛乳パックで作ったバスを走らせたりするなど想像力が膨らむ保育を実践しています。		
	日常的に異年齢保育を行っているため、お互いを認め合う心が育っています 当園では、日常的に異年齢保育を取り入れています。職員は見守る姿勢を基本として、子ども自らが頼りたい相手、遊びたい相手、場所を選択し行動できるようにしています。子どもたちは異年齢で車のおもちゃで遊んだり、園で飼育しているオカヤドカリをいっしょに観察したりしています。特に年齢の大きい子どもの行動を年下の子どもたちはよく観察しており、食後の食器の片づけ方や残菜の処理などをまねて、自分でできるようになっています。職員は子ども同士のやり取りを尊重して見守っており、子どもたちにはお互いを認め合う心が育っています。		
	子ども同士のトラブルには、お互いの気持ちに寄り添って対応しています 子ども同士のトラブルの際には、職員が一方的にトラブルを回避したり沈静させたりするのではなく、必ず互いの意見を聞き、お互いが納得できるまで話し合うようにしたり、子どもの気持ちを代弁して、子どもの気持ちに寄り添う対応をしたりしています。特に1、2歳児のかみつきなどは成長過程の一つであるため、未然に防ぐのではなく、お互いの気持ちを表出させ、様子を見守ります。トラブルや直近の懸念事項は職員全員が共有し、毎日の振り返りや園会議・ケース会議等で今後の対策を考えています。		
	評価項目1の講評補足		
非公表コメント			

2	評価項目2	子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている	評点(〇〇〇〇)
	評価	標準項目	
	あり	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	
	あり	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	
	あり	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	
	あり	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	
評価項目2の講評			
公表コメント	登園時には子ども一人ひとりの健康観察を行い、全職員で情報を共有しています		
	登園時には職員が子ども一人ひとりを視診、触診し、保護者にも様子を聞いて体調を確認し、連絡事項については「シッターノート」「お迎え伝達ノート」に記載しています。保護者の希望があれば、日課となっている9時からの散歩を室内活動に変更し、こまめに検温や体調を確認しています。全身状態もよく確認して、家庭でのけがや気になる傷やあざなどがあった場合には、日時と大きさがわかるように写真を撮り、記録を残しています。このような情報は、アプリを活用して全職員が情報を共有し、日々の変化は昼礼やクラス会議で話し合っています。		
	日常生活・遊びによって生活習慣が自然に身につくようにしています		
	園では裸足保育を実践し、「けがをしない強い体を育てる」ために、毎朝登園後にリズム体操、雑巾がけ、座禅、散歩を決まった時間に行っています。また「自分でできることを自分でする」ために、週2回の畑仕事を体験し、給食時には自分で盛り付けから配膳、お代わり、下膳までを行っています。できない子どもにはできる子どもがやってあげる習慣も身についています。トイレトレーニングでは、活動ごとにおむつのチェックを行い、尿意を感じる子どもの順に家庭での様子を共有しながら行っています。		
非公表コメント	降園時には「3分間対応」を心がけ、子どもの様子を保護者に詳しく伝えています		
	お迎え時には3分間対応(3分を目安に子どもの様子を詳しくお伝えしようという法人全体での取り組み)を実践し、遅番の職員であっても職員間の振り返りや引き継ぎを徹底し、日中の子どもの様子を手に取るようにわかりやすく伝えています。睡眠時間についても個人差があり、保護者から要望があった際には、それに応じた対応を心がけています。個々の様子に合わせて配慮し、午後の活動に支障のない範囲で調整して、保護者にも伝え、職員間においても共有しています。		
評価項目2の講評補足			

3	評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇〇)
	評価	標準項目	
	あり	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	
	あり	2. 子どもが人と関わる力を養えるよう援助している	
	あり	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	
	あり	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	
	あり	5. 子どもの心身の発達が促されるよう、戸外・園外活動(外気浴を含む)を実施している	
	あり	6. 生活や遊びを通して、子どもが自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	
評価項目3の講評			
公表 コメント	子どもの自主性を重んじて遊びこめる空間を確保しています		
	子どもの遊びが途中で中断しないように、動線を考慮し、興味、発達に応じて遊び込める空間を作っています。ごっこ遊び、電車遊び、ブロック遊び、絵本コーナー、製作といった「動と静」のバランスに配慮しています。子どもが何に興味をもっているかを全職員で話し合い、共有して月間指導計画、週間指導計画、日案に反映させています。おもちゃの取り合いになっても職員がすぐに仲介に入らず、子ども同士で思う存分に気持ちのぶつけ合いをする場を見守り、適時に仲介に入るようにしています。		
	子ども一人ひとりの思いを言葉にしなが、言葉に対する感覚を養っています		
非 公表 コメント	0歳児では喃語に保育士が優しく語りかけ、保育士との信頼関係を築いています。1歳児からはいい言葉のやりとりから自分の思いを伝え、相手の思いを知り受け止め、気持ちを汲み取る感覚を大事にしています。言葉のもつ響きやリズムの面白さや美しさ、言葉を交わすことの楽しさなどを感じ取り、十分に味わえるように、絵本や歌など子どもが興味や関心をもって言葉に親しむことのできるものを取り入れています。また、職員は、日常の挨拶をはじめとして生活や遊びの中で温かく言葉をかけながら、子どもとかわるよう心がけています。		
	野外活動・畑仕事を通して、自然や生き物について学んでいます		
朝、夕の1日2回の散歩活動を行っています。午前中は近隣公園に散歩に行き、自然に触れ、落ち葉や木の実を拾って持ち帰り、製作活動に生かしています。午後は園周辺を散歩し、地域の方々と触れ合う機会があります。2歳児は週2回、バスを利用して畑仕事に出かけ、水やり、間引きや草取りを行います。収穫した野菜は給食の材料となり、子どもたちの健康な体の源となっています。発泡スチロール容器に土と野菜くずを入れた培養土を作り栽培活動に使用し、飼育ケースにはかぶとむしの幼虫、オカヤドカ리를飼って子どもたちが興味深く観察しています。			
評価項目3の講評補足			

4	評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
	評価	標準項目	
	あり	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	
	あり	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	
	あり	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	
評価項目4の講評			
公表 コメント	決められた行事ではなく、毎年子どもの姿に合わせた行事を実施しています		
	<p>年間の行事や体験活動を決める際は、前年度の行事をそのまま踏襲するのではなく、一旦、計画を白紙に戻しています。そのうえで職員一人ひとりが「子どもたちにとって何が必要か」を考え、全職員で話し合い、子どもたちに今、体験させたいことを計画に入れるようにしています。年2回の保護者の参加行事では、運動会とお別れ遠足(徒歩遠足)を実施しています。園では行事は日々の取り組み発表の場と捉え、今年度の運動会は、0歳児はふれあい遊び、1歳児は雑巾がけ、2歳児はリズム体操を園でクラス別に行いました。</p>		
	保護者といっしょに参加できる行事があり、子どもも保護者も喜びを感じています		
	<p>行事の開催に向けて、行事のために練習するのではなく、日々の保育の中で子どもたちが興味、関心を持ち、楽しんでいることを中心に行事を組み立て、子どもたちの負担にならないように配慮しながら進めています。近隣の公園を利用して行うリズム体操やウォークラリーなど、保護者とともに参加できることに子どもたちは喜びを感じ、保護者も子どもの頑張る姿や成長した姿に喜びを感じています。</p>		
	行事においては、保護者の理解や協力を得るために工夫しています		
	<p>年間の行事予定表を4月に保護者に配信し、行事参加の予定を立てやすいよう配慮しています。職員は子どもたちの行事への取り組みや活動の様子を、保護者に送迎の際の会話や連絡帳アプリで伝えて、理解や協力を得られるようにしています。行事が近くなると、お便りを事前に配付するとともに、「ポピンズだより」に月の予定を掲載し、保護者が確認できるようにしています。</p>		
非公表 コメント	評価項目4の講評補足		

5	評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	あり	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	
	あり	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	
評価項目5の講評			
公表 コメント	保育時間の長い子どもが安心して過ごせる環境作りをしています		
	<p>保育時間の長い子どもが不安にならないように、マットなどを敷いたり、体調によっては布団を敷いたりして、くつろげるような環境づくりをしています。ゆったりと過ごせるように絵本や机上遊びなどコーナーを分けて、子どもたちが好きな遊びを選べるように工夫しています。疲れが見えてきた子どもや、不安な気持ちになっている子どもには、職員が寄り添って絵本を読んであげたり、スキンシップを図ったりしています。日中の異年齢児保育とは違った子ども同士のかかわりが見られ、迎えに来た保護者にも詳しく様子を伝え、職員間でも共有しています。</p>		
	19時半以降のお迎えの子どもには、夕食を提供しています		
	<p>園では、19時半以降のお迎えで保護者からの希望があった場合には、子どもに夕食を提供しています。夕食のメニューは月ごとに園のホームページに掲載されており、予約は当日16時まで受け付けています。18時を過ぎてからは、異年齢の子どもたちが合同になり、おもちゃの種類や数などに配慮しながら楽しく過ごせるようにしています。</p>		
非公表 コメント	評価項目5の講評補足		

6	評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇)
	評価	標準項目	
	あり	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	
	あり	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	
	あり	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	
	あり	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	
評価項目6の講評			
公表 コメント	0歳児は家庭と連携して離乳食を進め、1、2歳児は自分で席を決めて食事をしています 食事の時間は、0歳児は未食を提供しないようにテーブルを分けています。離乳食開始にあたっての確認票を保護者と共有し、食べておく食品を家庭で試してから園で提供することにしていきます。1、2歳児は座りたい席を自由に選べるようにしています。席の取り合いになることもあります。子ども同士で解決できるよう職員は見守っています。食事の食べ方や後片づけの仕方などは、年上の子どもの姿を見て、年下の子どももまねて習得しています。給食運営会議を月1回開催して、離乳食の進め方や嗜好の把握、献立の工夫などについて話し合っています。		
	素材の味を生かした和食を中心とし、工夫を凝らした楽しい行事食も提供しています 食事は薄味、和食をメインとして季節を感じられる献立を立てています。行事食にも力をいれて、七夕をイメージしたゼリーをおやつに提供したり、節分をイメージした大豆入りのごはん、クリスマスイメージした洋食を提供したりしています。食材の大きさ、固さの違うものなど調理を工夫し、発達段階に合わせて、はじめは一口大でも大きく切ったものにもかじりつくことができるようにしています。職員は一人ひとりの食事の様子に合わせて量や固さを配慮し、職員間で情報を共有して提供方法の確認をしています。		
	畑仕事で収穫した野菜を食べるなど年間の食育活動を通して食への関心を深めています 年間の食育計画に基づいて、さまざまな活動を行っています。調理活動では、子どもたちは給食で使うたまねぎの皮をむいたり、夏は畑で採れたピーマンをホットプレートで焼いて塩味で食べたりしています。給食で提供しているお米は、関連する農業生産法人の自給自足米です。毎月発行される食育だよりには、月のトピックスとして旬の野菜の栄養や、畑仕事レポートとして写真入りで子どもたちの様子を掲載しています。給食室前には、季節の野菜の写真を大きく掲示しており、子どもたちは野菜の名前を一つずつ言葉に出して覚えています。		
非 公表 コメント	評価項目6の講評補足		

7	評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇〇)
	評価	標準項目	
	あり	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	
	あり	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	
	あり	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	
	あり	4. 子どもの入退所により環境に変化がある場合には、入所している子どもの不安やストレスが軽減されるよう配慮している	
評価項目7の講評			
公表 コメント	生活リズムに配慮するとともに、野外活動では安全に遊べるように配慮しています コロナ禍で登園後の手洗いも習慣化され、0歳児も自ら手を洗おうとする姿があります。職員は、そのような子どもたちのわずかな変化を見逃さず、お迎えの際に保護者に伝えています。近隣の公園への散歩の際には職員が公園での約束を子どもたちに伝えている間に、もう一人の職員がたばこの吸い殻や空き缶を片づけて、子どもたちが安全に遊べるようにしています。園で事故やけがが発生した場合には、けが事故発生時対応フローチャートに基づいて、本部緊急連絡先に報告・相談し、病院受診、経過観察などの対応を決めています。		
	子ども一人ひとりの健康維持に向けて保護者と連携しています 毎月保健だよりを発行し、季節ごとに流行する感染症などに関する情報を保護者に提供しています。園内で感染症が発生した場合には、必要に応じて掲示やアプリで知らせています。乳幼児突然死症候群の防止については、午睡中に生存確認として5分おきにチェックしてアプリに記録しています。新型コロナウイルス感染症の感染対策としては手洗い、うがいを励行しています。また、予防策として一つのテーブルにつく人数を減らし、一方向を向いて座るなどして対応しています。		
	在園する子どもにも配慮し、子どもの入退所による不安やストレスの軽減を図っています 子どもの園での姿を家庭と共有しながら、できるようになったこと、何をしているのかを伝えています。入園した際には、安心して園生活を送れるように担当職員だけでなく、子どもが懐いている職員が寄り添うようにしています。また、新入園児の入園により、在園する子どもが不安定になることもあるため、その際にも職員がその子どもに寄り添い、何をしたいか、何を求めているのかを気持ちを汲み取っています。このような子どもたちの情報は、職員間で共有し、全員が同じ対応をとれるよう配慮しています。		
非 公表 コメント	評価項目7の講評補足		

8	評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
	評価	標準項目	
	あり	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	
	あり	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	
	あり	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	
	あり	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	
	あり	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	
評価項目8の講評			
公表 コメント	個々の保護者の事情に配慮した保育を実践し、支援しています 面談を希望する保護者には随時面談を行い、子どもの園での様子を伝えています。当日のお迎え時間の延長やキャンセルは保育予約システムで受け付け、夕食の追加やキャンセルは当日16時まで受け付けています。連絡帳アプリを活用して保育園での様子や家庭での状況を相互に確認しています。0～2歳児は、毎日の園での様子を連絡帳に記録して伝えています。またお迎え時の「3分間対応」を実践し、保護者に子どもの様子を伝えています。		
	保護者懇談会は、保護者同士が交流でき、園との相互理解を深める場となっています 毎年6月と11月の年2回行われる保護者懇談会では、園からの子どもたちの成長の報告や、残り半年の課題目標の提示のほか、保護者同士の懇親、保育内容への意見交換などを行い、園と保護者との相互理解を深めています。クラスに分かれて保護者主導で懇談会を行うことを目的としていますので、園からの報告は、冒頭10分程度にとどめています。懇談会の後には、保護者2名を含む運営委員会を開催し、園に対する意見、要望などについて意見交換し、利用者の立場に立った良質な保育を目指しています。		
	園の保育活動への参加を促しながら、保護者の養育力向上を目指しています 日々の登園、降園の際に、その日の子どもの姿を共有して、事細かに連絡帳に記入して保護者との信頼関係を深めています。保護者から提出された連絡帳に食事やイヤイヤ期のかかわり方、睡眠時間などの悩みが記入してあった場合には、詳細を共有したうえで園としての見解をていねいに伝えています。また、保護者には保育参加カレンダーを活用して保育参加日を決定し、集団での子どもの姿を見てもらっています。離乳食についての相談には、調理員が一人ひとりに対応してアドバイスをしています。		
非 公表 コメント	評価項目8の講評補足		

	9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	あり	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	
	あり	2. 園の行事に地域の人々の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	
評価項目9の講評			
公表コメント	公園で行う「青空保育」をはじめ、おはなし会、クッキングなど多様な体験をしています		
	公園での地域の子どものかかわりを大切にしています。月1回の青空保育では、同じ公園で絵本読みを行い、訪れた地域の親子といっしょにお話を聞いています。子育て支援活動として月1回開催する子育てサロンでは、おはなし会、水遊びアート、ピーマンクッキングなど親子で楽しめる活動を提供しています。地域の親子だけでなく、在園の親子も参加できるため、子どもにとっては地域の子どもたちとの触れ合いの場にもなっています。		
	子どもが職員以外の人と交流する機会を大切にしています		
	子どもたちは、月1回の高齢者施設への訪問や、集会所の紙芝居など地域行事への参加などを通して、職員以外の人とかかわっています。地域交流を目的とした週1回の商店街ツアーを実施し、さまざまな仕事を目にしたり、地域のおとなと目を見て話す体験をしています。職員とともに子どもたちは元気な声で挨拶を交わしながら、地域のさまざまな商店や会社を訪問しています。作品展、運動会、夏祭りなどの園行事の際は、区民館にポスターの掲示をお願いしたり、区民館で行われる催し物に積極的に参加したりしています。		
非公表コメント	評価項目9の講評補足		

調査対象	保育園を利用している28世帯を対象に調査を実施しました。在園児は30名で、兄弟姉妹が同園に通う世帯は年齢の一番低い子どもについて回答してもらいました。
調査方法	アンケート調査は無記名方式で、配付は施設を通じて利用者へ手渡し、回収は保護者から直接評価機関へ郵送する方法によりました。調査結果は選択回答だけでなく、記述式の回答についても匿名性に配慮してまとめ、保育園に報告しました。
利用者総数	30
利用者家族総数(世帯)	28
共通評価項目による調査対象者数	28
共通評価項目による調査の有効回答者数	21
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	75.0%

利用者調査全体のコメント

保育園に対する総合的な感想は、「大変満足」が15人(71.4%)、「満足」が6人(28.6%)で「満足」以上の回答は合計21人(100%)でした。

自由意見には、「子ども一人ひとりに対して、まっすぐ保育に取り組んでもらっており、本当にありがたいと感じています」「子どもたちがみんな明るく元気で、楽しい様子が伝わります」「手指を使うおもちゃが増えていたり、常に改善している様子が伝わります」「アットホームな雰囲気です」「先生はみなさん大変良い方で、気持ちよく通えています」「子どもも、先生が大好きです」「保護者の負担を少なくする配慮がなされています」「スケジュール、写真がアプリで管理されているので、とても便利です」など園への信頼と感謝を寄せる声が多く見られました。

項目別に見ますと、「保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか」「保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか」「提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか」「病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか」で100.0%の保護者がそれぞれ「はい」と回答し、とても満足度が高い様子が読み取れます。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	21	0	0	0
「はい」が100.0%でした。 自由意見には、「週2回の畑活動や、1日2回の散歩は、良いと思います」「他のお友だちの様子を見ることで、教えなくてもできることが増えているように感じます」「午前と午後の2回外出するのは、とてもいい刺激になっていると思います」「毎日いろいろな公園に、お散歩などに行ってくれ、子どもたちがしっかりと体を動かしているところに満足しています」「保育園に通い始めて、子どもが心身ともに成長していることを、改めて実感しました」などの声がありました。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	21	0	0	0
「はい」が100.0%でした。 自由意見には、「絵の具など、家が汚れてしまう遊びはしづらいので、保育園で経験させてもらえてありがたいです」「戸外遊びが多く、子どもが飽きることなく、安心して預けられます」「子どもたちが飽きないよう、先生方がさまざまな工夫をこらしてくれている点にも感謝しています」「畑やみそづくりなど、家庭ではなかなかできない体験を、小さい年齢からやらせていただけています」などの声がありました。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	21	0	0	0
「はい」が100.0%でした。 自由意見には、「おやつも手作りでありたいです」「よく食べているのは、おいしいということと、先生方が食べたいと思えるよう働きかけてくれていると思っています」「季節に合わせた食材を出してくださって嬉しいです。食べ物の名前も少しずつ覚えていきます」「家での食事のあげ方も相談に乗っていただけて、心強かったです」「病気のときにも個別対応していただけて、感謝しています」「毎日、昼食、おやつが手作りで、栄養バランスも考えられていて良いです」などの声がありました。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	20	1	0	0
<p>「はい」が95.2%、「どちらともいえない」が4.8%でした。 自由意見には、「家庭ではできない体験ができて、助かります」「自然と触れ合う行動が多いです」「動物とのふれあいや畑作業など、とても良いと思います」「畑や移動保育など、自然や季節の変化などを身体で感じられます」などの声がありました。</p>				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	17	0	1	3
<p>「はい」が81.0%、「いいえ」が4.8%、「無回答・非該当」が14.3%でした。 自由意見には、「0歳児からの延長保育に、快く対応してもらえました」などの声がありました。</p>				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	15	5	0	1
<p>「はい」が71.4%、「どちらともいえない」が23.8%、「無回答・非該当」が4.8%でした。 自由意見には、「実際に見ていないのでわかりません」などの声がありました。</p>				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	20	1	0	0
<p>「はい」が95.2%、「どちらともいえない」が4.8%でした。 自由意見には、「無理のない回数だと思います」「イベントは予定でもいいので、年間スケジュールがあると、あらかじめ職場と調整できるので、ありがたいです」などの声がありました。</p>				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	20	1	0	0
<p>「はい」が95.2%、「どちらともいえない」が4.8%でした。 自由意見には、「相談に親身に答えてくださり、助かっています」「連絡帳が役に立っています」「一人ひとりの子をよく見て、ていねいに対応してくださり、とても安心感があります」「子どもの成長を細かく親身に見てもらえて、心強いです」「先生方が信頼できます。子どもが好きなのが伝わります」などの声がありました。</p>				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	18	3	0	0
<p>「はい」が85.7%、「どちらともいえない」が14.3%でした。 自由意見には、「1日の中で何度か掃除をされていて、安心しました」などの声がありました。</p>				
10. 職員の接遇・態度は適切か	20	0	1	0
<p>「はい」が95.2%、「いいえ」が4.8%でした。 自由意見には、「全員がていねいで、言葉が優しいです」「優しい雰囲気先生が多くて、安心して見ていただけています」「子どもが本当に好きなんだなあと思い、安心できます」「先生方がいつもニコニコして、安心して子どもを預けられます」「先生たちが明るく、優しいです。雰囲気が良いです」「どの先生も明るく、挨拶もよくしてくれ、話しかけやすいです」などの声がありました。</p>				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	21	0	0	0
<p>「はい」が100.0%でした。 自由意見には、「傷にならなくとも、転んだときなどは、報告していただいています」「子どもの様子をよく見て、対応をしてくださっているように感じます」「けがをした時には受診して下さるそうで助かります」「体調をよく見てもらえて、散歩の有無も臨機応変に対応してもらえます」などの声がありました。</p>				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	16	2	0	3
<p>「はい」が76.2%、「どちらともいえない」が9.5%、「無回答・非該当」が14.3%でした。 自由意見には、「まだトラブルに、遭遇していません」などの声がありました。</p>				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	20	1	0	0
<p>「はい」が95.2%、「どちらともいえない」が4.8%でした。 自由意見には、「好きなこと、やりたいことをさせてくれているので、できることが増えてきていると思っています」「子どもが保育園に楽しそうに入っていく様子から、そう思います」「連絡帳の言葉からも伝わってきます。見習わなければと思う時が、多々あります」「保育士の皆さんが、子どもと保護者を尊重して接し、話をしてくれています」などの声がありました。</p>				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	18	2	0	1
<p>「はい」が85.7%、「どちらともいえない」が9.5%、「無回答・非該当」が4.8%でした。 自由意見には、「わかりません」などの声がありました。</p>				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	20	1	0	0
<p>「はい」が95.2%、「どちらともいえない」が4.8%でした。 自由意見には、「園での様子を写真で見られて、とてもありがたいです」「連絡帳がていねいに記載されているため、子どもの園での様子がよくわか」「連絡帳がていねいに記載されているため、子どもの園での様子がよくわかります」「連絡帳で、園で過ごしている様子を書いてくださる点が、とても助かっております。子どもの成長がよくわかります。アプリも便利です」「保護者会での説明の大部分は、帰宅後の資料確認だった気がします」という意見がありました。</p>				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	17	1	1	2
<p>「はい」が81.0%、「どちらともいえない」が4.8%、「いいえ」が4.8%、「無回答・非該当」が9.5%でした。 自由意見には、「申し訳ないとは思いつつ、お願いしたいことには対応していただき、感謝しています」などの声がありました。</p>				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	13	4	3	1
<p>「はい」が61.9%、「どちらともいえない」が19.0%、「いいえ」が14.3%、「無回答・非該当」が4.8%でした。 自由意見には、「契約書に書いてありましたが、つい忘れてしまいます」などの声がありました。</p>				